
ラクガキマール

吉岡カズト

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ラクガキマーブル

【Nコード】

N3905Y

【作者名】

吉岡カズト

【あらすじ】

落書き帳を使った事がありますか？

ほら、白い紙が何枚も綴られているアレですよ。

彼女の落書き帳はシャーペンで書かれた文字だらけ。

ある日の朝、そのシャーペンの字の上から赤ペンで、奇妙な文字列が書き殴られていました。

はじまりはじまり

理想と現実って、よく対義語みたいに扱われるけれど、実際は違うと思う。

いや、それも合ってるのか。

正の反意語が負と誤の二つある様に。

きっと理想にも現実にも複数の対義語があるのだろう。

私が思うに、理想の対義語は限界、現実の対義語は夢。……使い方を考えれば、結局似た様な物かもしれないけれど。

理想と現実とは両極端で、理想と限界は同じ方向の前後からの抑え込み、現実と夢はコインの裏表的な。

でも私は、この解釈に明確な価値を見出しているつもりだ。

自分の生き方の指針。人生の道標。

理想を追い求めることは素晴らしいことだ。大いに賛美すべき思想だ。でもいずれば限界が見えてしまう。見えた限界にたどり着いて尚その上を目指すのは、私からすればただの拘泥だ。

現実を見据えるのは素晴らしいことだ。誰しもが憧れる精神だ。でもいつまでも現実ばかりを見てはいられない。だから人は夢を見る。現実には飽きて尚現実しか見れないのは、私からすればただの頑固だ。

寝ても覚めても見える限界は同じ。

寝ても覚めても見える夢は同じ。

ならいつそ、理想と限界を並列に見て、現実と夢を平行に見て、真っ直ぐな自分でいられたら……。

だから私は常に自分を貫き通す。そうすることで、自分の存在を自分自身で認識しながら生きていたいから。

認めよう、私は私だ。他の誰でもない、誰も代わりえない、唯一の私。

なんて、脈絡のない思考を披露してみたりして。



「……みたりして、と。……ふう」

ここまで書いたところで、私は首を捻る。

なんだかキザっぽいなあ。

一応自分の思考をそのまま文字起こしただけではあるのだけれど、どこか見栄が出ているような気がする。ていうか、出てる。

「んー、おかしいなあ……あは」

自分探し初心者私としては、つまりこれが現時点での限界なのかもしれない。追い求める理想は今のところないけれど。自分探しに理想なんか重ねたらダメだ。混ぜるな危険。

自分探し。

一時期流行った言葉。今はどうだろう、もう死語なのかな。

私は自分探しをしている。

でも旅には出ていない。今いるのも自室の勉強机とセットになっていた椅子の上だ。

強いて言うなら、頭の中を旅しているような。それも表現としては大袈裟だけれど。

大袈裟なう。

……。

「いい加減寝よう……」

仰け反って背もたれに体重をかけながら体を伸ばす。ついでに後ろの壁にある掛け時計を見ると、十時半を少し過ぎていた。

夕食を摂ってお風呂に入って、勉強もせずに落書きしていたから実に二時間の浪費だ。ウェイストオブタイムだ。

自分探し、オンザペーパー。

小学校で自由帳を使っていたのを覚えている。小学生の必需品、とまではいかないけれど、休み時間の友だちと思う。

私が使っているのも似たような物で、白い紙が百枚ほど綴られた

落書き帳。こうやって意味のないことを書いたりすることもあるけれど、メモとかにも使えて案外便利だ。

私は自分の思考を綴って、文字に現れる自分を探している。文章に表れる自分を捜している。

だから、ある意味自分探し。

つまりただ単に旅に出る度胸がないだけ。

だって私、まだ高校生だし。

「学校があるから旅になんて出れないよ……」

小声でつぶやいて、ベッドに潜る。

動物の緊張が一番弛緩するのって、やっぱり寢床だ。何せ潜った瞬間に眠気が襲ってきたのだから。私は素直に目を閉じ、一日を終える。

……………。

そして夢の中へ。



暗い。真っ暗だ。一点の光も見えない。

体に触れるものがなにもなくて、私が今落ちているのか、浮かんでいるのか、それすら判断出来ない。

口を開くと、コポコポ泡が出て。

海の中、それもかなり深い位置だということに気づく。私は海の中にいるんだ、って。

体がギシギシしてうまく動かない。

水圧、だっけ。

関節が圧迫されるから動かしにくくなるんだろう。

体にまとわりつく物を感じるから、なんらかの衣服は着ているはず。動きづらい理由追加。

でも、なぜか息は苦しくないし、寒くもない。

自分が夢の中にいることがなんとなくわかる感覚。ついさっきベ

ツドに横になった気がするし。潜ったんだっけ。だから海なのかな。ということとは、着ているのはパジャマかもしれない。

ずっと足がつかない。手を振り回してもなんにも触れない。

たった一人で海の中。

真っ暗だから、浮かんでいるのか、沈んでいるのかもわからない。なにも情報が入らない。

人間は新しい情報がなにも入ってこない場所に閉じ込められると発狂するらしい。

私も夢の中で発狂するのだろうか。

発狂したらどうなるんだろう。

らっきょうが食べたくなるのだろうか。

私はらっきょうが好きだから発狂しなくても普通に食べるけれど、海って広い物の象徴みたいなイメージがある。実に地球の表面の七割を覆っているわけだし。突然現れた宇宙人に観光案内をするならまず海を見せないといけないだろう。海の水を飲ませればなおよし。

そういえば、海には童謡があったっけ。広いとか大きいとか、外国に行きたいとか。どこまでものんきな歌が聞こえてきそうだ。

そんなことを考えていたら、夢の中のはずなのに眠くなってきた、私は目を閉じた。目を閉じて、開けていた時と変わらず真っ暗だった。

.....。

▲

夢を見た。変な海の中の夢。右も左も上も下もない夢。

体を起こす。壁に掛かっている時計も、窓の外の明るさも、今朝だという事を私に教えてくれている。

夢を見ていた時間が、実際に寝ていた時間より短いから、なんだか時差ぼけな気分。時差ぼけなんて体感した事がないけれど。

ふと机の上を見ると、落書き帳が片付けられずに放置されていた。家族に見られると困るからいつもは隠しているのだけれど、どうやら昨日は眠気に負けて忘れていたようだ。

危ない危ない。

あるいはもう見つかったかも。

どちらにせよ片付けるけれど。

と、手にとってみて、異変に気付いた。

むしろ異常か。

『ゆめうつつかきりあこかれならへともいつれもひとしくわれをみたさす』

私の落書きの上に、わざわざ赤ペンで、ひらがなの羅列が書き殴られていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3905y/>

ラクガキマール

2011年11月10日03時10分発行